

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2372001111
法人名	医療法人 光生会
事業所名	グループホーム エバグリーン
訪問調査日	平成 21 年 3 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 7 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2372001111		
法人名	医療法人光生会		
事業所名	グループホーム エバグリーン		
所在地	〒441-0021 愛知県豊橋市多米町字大門10番地 (電話) 0532-62-4434		
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町1丁目24番地 COMBi本陣 N203号		
訪問調査日	平成21年3月10日	評価確定日	平成21年4月7日

【情報提供票より】(21年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 1 月 24 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	31 人	常勤 24 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 23.8	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000~36,750 円	その他の経費(月額)	15,450~24,950 円
敷 金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1200 円(おやつ代を含む)		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	27 名	男性 5 名	女性 22 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	8 名	要介護4	8 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84.9 歳	最低 56 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人光生会病院・医療法人赤岩病院・多米恒川歯科医院・小笠原歯科医院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、豊橋市内の由緒ある赤岩寺山門脇にあり、花と緑の多い自然に恵まれた中にある。ホームは、医療法人光生会のグループに属しており、病院を改修した建物で、デイサービス併設の施設である。隣には、老人保健施設赤岩荘・通所リハビリテーション等がある。エバグリーンは、「その人らしく気持ちよく自己実現ができる支援をする」を基本方針として、利用者の生き方や考えにあわせ、本人が望むような生き方(どんな時でも外出の同行など)が出来るように、管理者・職員が実行している。「出来ることはそのまま行ってもらい、出来ない事を横から支援する。」利用者が主役、職員が脇役、事業所はゆっくりとした時の流れや利用者の安心を作り出す場所として、医療面、安全面で支援され、地域の一人として暮らしを楽しんでいただいている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は①同業者との交流を通じた向上・・・事業所は先駆者であり、リーダーシップ的存在で改善されている。②重度化や終末期に向けた方針・・・医師が入院を必要と認めるぎりぎりまでは、援助する方針を職員は共有しているが、誤嚥性肺炎の危険が生じた時には、対応が限界であることを家族に説明している。③災害対策・・・備蓄品である水、食品(カンパン等)は7日分くらい確保している。地域の人の施設内への避難場所の件は、具体的にはまだ進んでおらず、結論には至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>3ユニットの全職員が各ユニットごとに自己評価に取組んだ。自己評価をケア提供上のテキストにしている。ホームでは、年間の実践目標を立てて、職員は各自3か月毎に中間評価している。評価は共有して各職員の反省や向上につなげている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は行政、地域住民、利用者、家族、職員など18名のメンバーで構成、2ヶ月に1回開催されている。取り組み状況や現況報告が行なわれ、質問や意見が出て討議されている。前年度の外部評価の結果についても確認され、報告されている。委員は毎回、各ユニットに分かれて利用者とお茶を飲んだりしてお話する時間を持たれている。そこで得た情報を運営推進会議の中で、気付きの話し合いをし、参加者の認知症理解にも活用されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホームでは、『家族苦情処理のために講ずる措置の概要』を掲示したり、『苦情受付窓口』の設置をしている。毎月の請求書送付時にも苦情、不安なこと、ご意見など、何でも伺えるように用紙を同封している。家族交流会も食事をしながら、家族同士が気軽に話し合えるような雰囲気作りをして、意見を引き出すよう努めている。運営推進会議、家族から出された意見、苦情、不安などは、会議、ミーティングで検討され、日々のケアに活かしている。</p>
	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会は運営法人が加入している。ホームの隣に赤岩保育園があり、月1回、誕生会に出席している。地域の中学校文化祭のバザーにも参加している。さらに、今年より実行委員によって、ホーム内に常設で、作品等の展示や販売が出来ないかを検討中である。事業所周辺の掃除や散策、買い物に出るなど、日常的に周辺へ出かけている。防災について、ホームには、備蓄として、水や食料の備えもあるので、近所の方の一時避難場所に活用出来ないかと地域へ提案し、話し合いを継続している。</p>
重点項目③	
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「気持ち良く自己実現が出来る援助」を理念として掲げ、玄関を入った掲示板に分かりやすく表示してある。理念である自己実現は、「その人らしさ」を大切に尊重することを掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を実践する為、職員は、各自が実践年間目標を定め、3か月毎にその進捗状況进行评估し、理念を再確認するとともに理念の実現を共有しようと取り組んでいる。利用者の好みやニーズ、また出来ること、出来ないことなど、定期的にカンファレンスを開き、漏れのないように確認しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム隣の保育園には、毎月の誕生会、お茶会、運動会などに、招待されている。散歩していると園児から声をかけられるなど交流は常にある。社寺の清掃、合同の防災訓練、そして小学校の行事や近くの中学校のバザーにも参加している。今年より実行委員によって、ホーム内に常設で、作品等の展示や販売が出来ないかを検討中である。近隣道路の草取りなどもして、地域との交流に努めている。		
1. 理念と共有					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は3ユニット毎に全職員が記入し、リーダーがまとめた。自己評価を『テキスト』と位置づけることにより、利用者や、家族の立場を理解することで気づきが生まれ、職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。自己評価への取り組みや外部評価を受けることで、マンネリ化を防ぐことに役立っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月1回開かれており、出席者は、住民代表・民生委員・老人クラブ・地域包括支援センター職員・家族と利用者代表・母体法人光生会・事務局の合計18名で構成している。出席者は会議の一部として、利用者と共に過ごす時間を加えるなどして運営面でも工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームへは、毎月、市の介護相談員が事業所を訪問している。管理者は、市の要請で認知症サポーターの養成講座の講師をしており、市とは良好な関係を築き、何でも相談できる関係を大切にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりは、毎月発行する「エバ通信」で知らせしている。ケアプランと共に1か月分のケア評価の作成と日々の健康状態を把握していただく為、毎月署名捺印をお願いしている。受診の際には、現状報告をして相談し、受診後には結果を報告している。金銭収支報告も毎月出納簿にサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族が気軽に話しやすいよう声かけをしている。『家族苦情処理のために講ずる措置の概要』を掲示したり、苦情受付窓口を設置している。毎月の請求書送付時にも同封して、苦情、ご意見が伺えるように配慮している。家族交流会では食事をし、和やかな雰囲気、言いやすいようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	過去1年では退職者1名・採用者5名である。ホームには、古い職員が多く、利用者と職員の顔なじみが多い。新しい職員5名には、利用者との馴染みの関係が出来るまでは、先輩職員に教えられながら、引継ぎには十分時間を取り、不安や戸惑いが生じないよう努めている。	○	家族アンケートに、職員の名前が分からないとの指摘があった。玄関ホールに掲示しているような職員の写真と名前を各ユニット内にも掲示するなどして、更に、家族に理解されるような工夫を検討されるよう望みたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の離職が少なく、職員には働きがいのある職場であると評価されている。管理者の仕事は人を育てることと理解されており、研修にも力を注いでいる。毎年、外部研修50回、内部研修が40回行われている。今年も介護福祉士(国家資格)を取得した職員がいる。次の資格に挑戦する前向きの職員が多い。一人で複数の資格を持っている職員が多い。	○	ケアマネ受験対策講座やバリデーション研修等、更に向上したいと考えている職員のニーズもあるので、職員の尚一層のレベルアップのためにも、かかる研修の継続実施を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、合同研修などで他ホームと交流をしている。他ホームに見学に行ったり、祭りに招待されたり、よいところを取り入れるなどの交流をしている。また、愛知県グループホーム連絡協議会に加入して、有力会員としての役割を果たしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して利用する為に、事前に話を聴いて、希望や意向の確認を行い、家族からも、求めていること、不安なことは無いかなど聴いている。ホームの見学時には「くつろげる場所」、「職員・利用者が優しいと感じる場所」、「皆が笑顔で話しているなど」体験することにより馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々生活を共にしている中で、一人ひとりの利用者得意としていることを教えてもらうことが多い。調理、菜園、掃除、洗濯(干す・たたむ)、習字、水彩画など、一人ひとり得意な分野が違うが、職員はそれを理解し、学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴から来る、思い、趣味、味覚、好き嫌いなどの情報を、家族などから集めて、利用者の自己実現に沿えるように努めている。職員は、見守りながら横で支援できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは、本人の意向を大切に家族の意見も聴き、日々のケア記録、連絡ノートにより、カンファレンスを行い検討しながら、本人の出来ることを考慮して分かりやすく、実践可能なニーズを考えて作成している。プランは本人・家族にも分かりやすいように作成するよう心がけている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護保険の更新時以外にも職員は、日々のケアの中で、利用者の情報を集め、状況を見ながら変化に気付くように心がけている。毎月末には、カンファレンスを実施して、実情に合った計画の見直しが為されている。万一、変化が生じた時には、関係者が急遽、カンファレンスを行い、実情に合った見直しをしている。家族にはその都度、介護計画での評価を見ていただいたうえで署名捺印をしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が宿泊する時は、利用者と同じ部屋で、簡易ベット使用対応が可能である。医療法人の特徴を活かして、職員の募集、研修、医療についての協力、調理の献立作成、食材の受取り、災害対策の協力があり、さらに、利用者の入居前、退所後の関係施設への協力等がある。施設と職員は社会資源と考えて活用している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する医療機関に受診することが出来る体制である。受診する医療機関がホームから10キロ以内であれば、職員が同行もしている。家族の意向を確認しながら医療機関と協力、支援体制を作っている。協力病院とは、受診、夜間の入院、相談など昼夜を問わず利用出来る体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族、主治医、管理者が話し合って意向を確認している。職員は希望に沿った介護支援をするよう方針を共有している。ホームでは医師が、入院治療を要すると判断する、ぎりぎりまでは、ホームでの暮らしが続けられるように援助す方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する記録物は、事務所や詰め所で管理している。居室の表札の名前、「エバ通信」に写真を掲載することは、契約時に確認書を頂いている。面会時には、伝票方式で面会者が記入したら、1枚ずつ備え付けの箱に入れる形式を取っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「その人らしく」を最優先に一人ひとりの思いを実現できる支援をしている。食事時間も一人ひとりのペースを大切に、就寝時間も自由である。利用者各個人の意思を尊重して、無理強いをしない日々の生活支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は、医療法人の管理栄養士が立てた献立の食材を、老健の厨房まで利用者と職員とで取りに行っている。調理、盛り付け、後片付けなど、職員はさりげなく、手伝う感じで、共に行っている。おやつも手作りである。中庭で取れた野菜や卵等をおでんや、お好み焼き、味噌汁、盛り付けに使っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能である。一人ひとり好みの温度に留意してゆっくり、気持ちよく入浴できる支援をしている。入浴を拒む利用者には、明日入浴することを約束して印をつけ、その人の意思を尊重している。時には、車椅子使用の方で無理をしないために、デイ利用者のいない時間帯に、デイサービスの特浴を利用されることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	水彩画、習字、調理、縫い物、洗濯(干す、たたみ)、菜園等、利用者それぞれの得意で好きなことを、一人ひとりの力に合わせた支援を行っている。利用者の作品が居室やフロアのそこかしこに展示されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	緑が多く自然環境に恵まれた場所でもあり、利点を生かし、毎日の散歩を楽しんでいる。近くにお寺や保育園があり、園児が声をかけてくれたり挨拶したりと、変化に富んだ散歩をすることが出来る。また、ゴミ出し、鳥のえさやりは職員と共に行っている。	○	日常の散歩や買い物などの外出は、毎日実行されている割には、家族の中に、あまり認識されていない方も見受けられる。「エバ通信」でも日常的な外出も写真・記事等を掲載するなどして、家族に周知する工夫を検討するよう期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	エレベーターや中庭にはいつでも自由に入出入りすることが出来る。ただし、玄関はデイサービスと共有している関係から、外から入るのには鍵はかかっているが、出るときには電子錠で管理されている。とはいえ、外出したい人はいつでもどこへでも、職員が同行するように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームでは、消防署と連携し、併設の施設とも合同で避難訓練や防災訓練を行っている。スプリンクラーも既に設置されており、備蓄食品については3日分確保し、水についても貯水槽に1週間分ある。	○	高齢者中心のホームであるので、油断禁物で今後とも現在の取り組みを更に継続されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューで食材が手配され調理している。摂取量も毎食管理されている。水分補給は毎食後と10時、15時、入浴後に補給しており、管理表もある。それ以外にもいつでも飲みたい時に飲めるようテーブルの上にやかんと湯飲みが置いてある。自身の水筒を持参の方には、毎日お茶の入れ替えをしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関に入ると利用者の作品が目につく。真鯛や里山風景の水彩画が描かれていて訪問者の人目を引く。利用者の作品が訪問者と利用者の心を和ませてくれる。各フロアーにも季節感あふれる作品が展示してある。テーブルには中庭で咲いた草花を飾るなどしている。共用空間は掃除も行き届いていて清潔である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、自宅で使い慣れた道具・生活家具や身の回りの品、家族の写真など持ち込まれている。利用者が自宅にいた時と同じ感じでホッとした環境になるようにしている。家族の写真や花を飾ったりして、その人にとって住みやすい部屋となっている。温度、湿度調整は利用者の体調に合わせて、こまめに調節を行なっている。		